

第3学年 国語科学習指導案

い組 男子18名 女子17名 計35名

指導者 古園 正樹

1 単元 読んで、かんじたことを発表しよう（教材「もうすぐ雨に」光村3年上）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第2学年の「お話を読んで、かんそうを書こう」の学習で、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む能力を身に付けてきている。また、第3学年の「場面のようすを思いうかべ、音読しよう」の学習で、場面の様子に合わせて音読の工夫を考え、進んで表現しようとする態度を身に付けている。さらに、物語の中で起こる出来事を自分に重ねて考えたり、読んで感じたことを友達と伝えたりしたいという願いをもっている。

そこで、本単元では感性・情緒の側面から登場人物の行動や気持ちについて場面と場面を比較したり関係付けたりしながら叙述を基に捉える能力や、物語を読んで感じたことについて自分の思いや考えにふさわしい言葉を選んで伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「読んで、かんじたことを発表しよう」（教材「もうすぐ雨に」）を設定した。

この学習は、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、考えたことを話し合う「読んで考えたことを話し合おう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「もうすぐ雨に」は、主人公「ぼく」と様々な動物の間で起こる不思議な出来事や「ぼく」の優しさ、相手の気持ちを考えることができるようになる「ぼく」の成長を描いた文学的文章であり、他者との関係をよりよくしようとするこの期の子どもたちに適した教材である。また、物語の組み立てが「始まり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」の起承転結で構成されており、「ぼく」の行動や気持ちについて場面と場面を比較したり関係付けたりしながら捉えることができる。さらに、「ぼく」の行動や会話、「ぼく」に起こった出来事について感じたことを交流することができ、自分の思いや考えにふさわしい言葉を選んで伝え合うのに適した教材である。

そこで、本単元では、「ぼく」の行動や気持ちを捉えさせるために、物語の組み立てに着目させ、「ぼく」に不思議な出来事が起こったときの行動や気持ちが表れているところを書き出しながら読み進めさせる。その際、自分の好きなところについて感想を発表することを単元の言語活動として設定する。その上で、読んで感じたことを発表するために、物語をどのように読めばよいかという課題意識をもたせ、必要感をもって教材文を読ませることが大切である。

具体的には、まず、試し作りとして教材「もうすぐ雨に」を読んで感想を発表させ、うまくできたこととできなかったことを整理させ、感想をもつためには、登場人物の行動や気持ちについて叙述を基に捉えることが必要であることを確認する。

次に、「もうすぐ雨に」を読んで、「ぼく」の行動や会話に着目しながら、出来事の展開や「ぼく」の気持ちを読み取らせる。その際、自分に同じような出来事が起こったらどうするだろうという視点で、「ぼく」の行動や気持ちに寄り添い、感じたことを発表させる。

さらに、試し作りの感想と見直しの感想を比較させたり、互いの感想を交流させたりして、学習に対する達成感を味わわせるとともに、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。

これらの学習を通して、感情や想像を言葉にする力や言葉を通じて伝え合う力を高めることができる。その中でも、文学的文章を読む際に、登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えたことを既習、他者、教材とつなぎながら自分の考えを強固・付加・修正しながら読むことができるようにする。このような学習を積み重ねることで、言葉同士の関係性を問い直して考えを形成し、自分の思いや考えを深めることができるようになっていく。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想(複数回答)
・動物たちの声が聞こえるところが不思議だった(おもしろかった)。(26) ・「チリン」と鳴った後、動物たちが話すのが不思議だった。(17) ・自分も動物たちと話してみたい。(10) ・「ぼく」は動物たちの気持ちを考えられる人だと思う。(2)
② 不思議な出来事(動物たちの声が聞こえる)について(複数回答)
・どのような出来事が起こったか理解している。(31) ・動物たちの声が聞こえるようになったきっかけを捉えている。(6) ・動物たちの声が聞こえるようになったことが、物語の中でどのような役割を果たすか捉えている。(2)
③ 出来事が起こる前後の変化について
・動物の声が聞こえる(聞こえない)ことだと捉えている。(27) ・天気が晴れから雨になったことだと捉えている。(4) ・分からない。(3)
④ 言語活動「読んで感じたことを発表する」について
・「ぼく」に起こった出来事について(29) ・「ぼく」という人物について(2)
⑤ 難語句(複数回答)
・のきうら(21) ・せかせか(18) ・ひっきりなし(17) ・かすめて(14) ・ちんまり(9) ・低空飛行(9) ・しっけ(6)

多くの子どもたちが、主人公「ぼく」に起こった不思議な出来事(動物たちの声が聞こえること)に興味をもち、「ぼく」の立場になって自分も動物たちの声を聞いてみたいと思っていることが分かる。しかし、その出来事が起こったきっかけに気付いたり、出来事が物語の中でどのような役割を果たしているかを捉えたりしている子どもは少ない(①②)。これは、物語を読むとき、どのような出来事が起こるかという意識が強く、物語の展開ごとに登場人物の行動や気持ちに目を向けることができないからだと考えられる。また、出来事が起こる前後の変化について、多くの子どもたちは、「ぼく」が動物たちの声を聞けることに着目しているが、「ぼく」が動物たちの気持ちを考えるようになったことに気付いている子どもは少ない(③)。これは、出来事の変化を捉えることができるが、登場人物の行動や気持ちに着目して読む観点が身に付いていないからだと考えられる。本単元の言語活動である「読んで感じたことを発表する」について、ほとんどの子どもは「ぼく」に起こった出来事に関する観点で感想を述べており、「ぼく」という人物に関する観点で感想を述べる子どもは少なかった。これは、登場人物の行動や気持ちについて、どんな人物か伝え合う経験が少なく、語彙が十分に身に付いていないからだと考えられる(④)。難語句については、物の様子を表す言葉や、日常生活ではなじみのない物や場所を表す語句が挙げられている(⑤)。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもが試し作りの感想から課題を見だし、観点に沿って物語を読むことができるように、指導内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考ええる。

ア 単元・教材への興味・関心を高めさせるために、題名「もうすぐ雨に」の後にどんな言葉が続きそうかを交流し、物語の展開を予想させる。また、自分が動物と会話をすることができたなら、どのような会話をしたいか伝え合わせる。

イ 各場面における「ぼく」の行動や気持ちについて叙述を基に捉えさせるために、物語を「始まり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」に分けて組み立てを理解させたり、不思議な出来事が起こったときの「ぼく」の行動や気持ちが表れているところを書き出させたりながら、各場面の「ぼく」の気持ちを考えさせる。

ウ 自分の学習を振り返らせ、学習の有用感を味わわせるために、試し作りの感想と見直しの感想を比較させたり、友達と交流させたりすることで、自分の学習の成果に気付かせる。また、本単元で身に付けた国語の能力が今後の学習や日常生活でどのように生かされるか話し合わせる。

3 目 標

- (1) 「もうすぐ雨に」で「ぼく」に起こった出来事やそれに対する「ぼく」の行動や気持ちに関心をもち、感じたことを表す言葉を選んで感想を伝えようとするができる。
- (2) 「ぼく」の行動や会話に着目しながら場面と場面を比較したり関係付けたりしながら、「ぼく」の気持ちについて叙述を基に捉えることができる。
- (3) ・ 「ぼく」の気持ちについて、行動や会話を基に捉えながら読み取ることができる。
・ 「ぼく」の行動や気持ちを表す表現に気付く、その性質や役割を理解することができる。

4 指導計画（全7時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	「もうすぐ雨に」の後にどんな言葉が続くのかな。	1 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し ○ 教材との出会い ・ もし、自分が動物と会話ができたら、どんなことを話したいか。 ○ 試行（試し作り） ・ 「もうすぐ雨に」を読んだ感想を発表する。 ○ 課題解決の見通し ・ 「もうすぐ雨に」の感想を発表するための観点について話し合う。	○ 単元や教材への興味・関心を高めさせるために、「もうすぐ雨に」の題名から物語の内容について思ったことを交流させたり、もし、自分が動物と話をすることができたらどんなことを話したいか交流させたりする。 ○ 感じたことを発表する観点を子ども自身に気付かせ、観点を意識して教材文を読むことができるようにするために、試し作りで書いた「もうすぐ雨に」について感じたことを発表する文章の観点について話し合わせる。
しらべる・ふかめる④	もし、自分が動物と話すことができたなら、△△を聞いてみたい。 不思議な出来事が起こる物語だな。読んで感じたことを発表するには、どんなことに気を付けて読めばよいかな。	かんじたことを発表するには、物語をどのように読めばよいだろうか。	○ 内容と形式の両面から言葉を吟味させるために、動物の声が聞こえてくることに対する「ぼく」の行動や会話に着目させる学習課題を設定し、その時の「ぼく」の行動や気持ちについて叙述を基に話し合わせる。
ふりかえる①	「ぼく」は、動物たちの声が聞こえて驚いているな。なぜ、○○のような行動をしたのかな。	2～5 限定された場面での試行錯誤（本時） ○ 「もうすぐ雨に」の組み立ての把握 『ぼく』にどのような出来事が起こったのだろうか。」 ○ 「もうすぐ雨に」の読み取り 「なぜ、『ぼく』は自分にふしぎな出来事がおこっていると気付いたのだろうか。」 「なぜ、『ぼく』はかえるたちを心に思いうかべたのだろうか。」 「なぜ、『ぼく』はトラノスケの言いたいことがよく分かったのだろうか。」	○ 言葉と言葉をつなぎ、自分の考えを深めさせるために、直感を基に見いだした根拠を「ぼく」の行動で想像したこと（既習）、「ぼく」の動物への気持ち（教材）、友達と考え（他者）を関係付けて考えを再構築させ、自分なりの解釈をもたせる。
いかす①	動物たちの声が聞こえなくなるけど、「ぼく」は動物たちの気持ちを考えていることが分かったぞ。	6 試行（試し作り）の見直し ○ 「もうすぐ雨に」を読んだ感想の発表 ・ 「ぼく」の行動や気持ち、「ぼく」に起こった出来事について、感じたことを発表する。 ・ 試し作りと見直しの比較をしたり、友達と交流したりして、自己の変容を確かめる。	○ 単元の学習で身に付いた国語の能力を自覚させるために、試し作りと見直しの感想を比較させて、物語を読む際の観点が明確になっていることに気付かせる。
	登場人物の行動や会話に気を付けて読むと、自分の感想をもつことができた。他の物語も読みたい。	登場人物の行動を表す言葉や会話に気を付けて、行動や気持ちが出てくる場所をもちに気持ちをとらえようとい。	○ 本単元の学習を価値付け、今後の生活や学習に生かすために、身に付けた力を振り返ったり、他の物語での発表会を通して考えたことを交流させたりする。
		7 活用場面の想起 ・ 他の物語を読む。 ・ 他の物語を読んで感じたことを発表する。	

(1) 目標

(2) 本時の展開に当たって

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとめ	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返り、本時の学習範囲を確認する。 (2) 学習課題を設定する。 なぜ、「ぼく」は、かえるたちを心に思い浮かべたのだろうか。 2 課題解決の見通しをもつ。 3 「ぼく」が考えたことを話し合う。 かえるは雨が好きだからだと思う。 ひ ひとりで考える 「ぼく」は、雨がふるのがうれしい誰かのことを考えているから、かえるを思い浮かべたと思う。 み 友達と比べる 「ぼく」はみどりがめめ実験をして「やっぱり」と言っている。だから、動物の声が聞こえるのは、かえるのおれだと考えているからだと思うよ。 【不思議な出来事の因果関係】 と み みんなと比べる 初めの場面でかえるを助けたとき、「ありがとうって言いたいのかな」と思っている。「ぼく」は、ずっとかえるのことが気になっていたのだと思う。 【「ぼく」の気持ち】 み 「びよん」は、かえるが飛び跳ねている様子を表しているよ。 【かえるの様子】 ひ 「びよんびよん」だと、雨に対するかえるのうれしさが伝わってくるよ。 【かえるの気持ち】 ひ 「ぼく」の気持ちをまとめる 「びよんびよん」は、雨が降ってきたことをとても喜んでいてかえるたちの気持ちを表していると思う。「ぼく」はかえるたちの気持ちまで考えているね。 4 学習のまとめを行う。 「ぼく」は、動物たちの声を聞かせてくれたかえるが、雨がふってきたことをよるこんでいると思ったから。 5 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを話し合う。 友達が、動物の声が聞こえるようになる前と後で、「ぼく」の気持ちを比べて考えたことが参考になったよ。	(分) ↑ 7 28 10	○ 教材への興味・関心を高めさせるために、「出来事の起こり」の場面で起こった不思議な出来事や「ぼく」の行動・気持ちを振り返り、その後、出来事がどのように変化するのか確認する。 ○ 声の主が書かれていないのに「ぼく」はかえるの声だと判断していることに気付かせるために、「からすの声を思い浮かべたかもしれないな。」と問い、叙述を基に「ぼく」の気持ちを捉えることのできる学習課題を設定する。 ○ 自分の考えの変容を捉えさせるために、学習課題に対する直感をノートに書かせて、友達と話し合った後の考えと比較させる。 ○ 「かえるのおれ」や「かえるを助けた」の観点に気付かせるために、「みどりがめめ雨が好きなのではないか。」「かえるは特別な存在なのか。」と問う。その際、他の場面の「ぼく」の気持ちが表れている叙述を「ぼく」の気持ちと関係付けながら「ひとみ学習」で交流させる。 ○ かえるが喜ぶ様子を想像する「ぼく」の気持ちを捉えさせるために、「びよんとはねている」を提示して「びよんびよんはねている」と比較させ、「ぼく」がかえるの様子だけでなく、うれしい気持ちも考えていることに気付かせる。 ○ 自分の考えを再構築させるために、話合いで見いだされた「かえるのおれ」「かえるを気にしていた」「かえるのうれしい気持ち」の観点から学習課題に対する自分なりのまとめを書かせる。 ○ 学び合いのよさを実感させるために、自分の直感とまとめを比較させながら考えの変容に気付かせたり、本時で身に付いた力を振り返らせたりする。また、友達との話合いを通して、誰のどのような考えが自分の考えの変容につながったのか振り返らせる。